



Courtesy of Armand de Mestral

ベーツ第4代院長・初代学長愛用の杖



杖の撮影：安永順一さん

10月24日、C. J. L. ベーツ第4代院長・初代学長愛用の杖が航空郵便でカナダから関西学院に到着しました。この杖は、モントリオール在住のご令孫アルマン・デメストラルさん (Dr. Armand de Mestral) がお祖父様の遺品として、お母様から譲られたものだそうです。弟のチャールズさん (Dr. Charles de Mestral) が、梱包と発送の労をとっていただきました。

2022年は、関西学院にとって大学開設90年という記念すべき年です(ベーツ院長来日120年、“Mastery for Service”110年でもあります)。大学開設に伴い、初代学長を兼任されたベーツ院長の思いが、この杖と共に21世紀の関西学院に舞い戻ってきたようです。



杖の長さ96cmから逆算すると、ベーツ院長の身長は186cmだったと推測されます。ハンドル部分(直径45mm、長さ65mm)はシルバーで、「福」の文字と梅の花がデザインされています。

2014年、関西学院は創立125周年を迎えました。それを記念し、同窓会で「創立者W. R. ランバスの足跡を巡る旅」が計画・実施されました。当時、同窓会常任理事で企画委員長をされていた多田義治さん(1961年法学部卒業)を中心に、総勢100名がブラジル編(2012年)、アメリカ南部編(2013年)、上海・蘇州編(2014年)に参加しました。私は、アメリカ南部編の実施に当たり、現地関係者との交渉を頼まれ、ツアーの一部にも同行しました。さらに、ブラジル編には平松一夫元学長、アメリカ南部編と上海・蘇州編にはルース・グルーベル第15代院長も参加されました。参加された同窓から、次はカナダに行き、ベーツ第4代院長の足跡を訪ねたいとの声が上がりました。



創立者の時と同じく、多田さんを中心に「ベーツ院長の足跡を巡る旅(カナダ)」が計画され、2020年秋の実施を目指し、現地関係者との交渉が始まりました(残念ながら、新型コロナウイルス感染症の流行拡大のため、この計画は翌年に延期された後、一旦中止となりました)。カナダでの訪問先について、2019年に同窓会から相談を受けた時、真っ先に私にご連絡差し上げたのは、アルマンさんとチャールズさんでした。お二人とも、この計画を大変喜ばれ、お墓参り等できる限り同行したいとおっしゃいました。

このツアーには、舟木譲第17代院長も参加される予定でした。マギル大学名誉教授のアルマンさんは、ベーツ院長の母校である同大学で訪問団を歓迎する準備を始められました。そして、お祖父様が愛用されていた杖を同窓が見守る中、舟木院長に贈呈したいとお申し出くださいました。

「いつ見ても素晴らしい企画ですね。とりわけ、私自身が行くことが叶わない分、個人的に余計に素晴らしいという思いが倍增されるのだと思います。仮にツアーが実現できない場合でも、舟木院長にはぜひ関学を代表して、カナダの関係者に挨拶してきていただきたいです」と、故平松一夫前理事長も実現を心待ちにされていました。

【学院史編纂室 池田裕子】

